

# 接近性からみた海辺景観資源の潜在量把握と顕在化 に関する計画論的研究

中江, 亮太

<https://doi.org/10.15017/1654988>

---

出版情報：九州大学, 2015, 博士（工学）, 論文博士  
バージョン：  
権利関係：全文ファイル公表済

氏 名：中江 亮太

論文題名：接近性からみた海辺景観資源の潜在量把握と顕在化に関する計画論的研究

区 分：乙

## 論 文 内 容 の 要 旨

我が国の国土施策は、全国総合開発計画に代わって策定された国土形成計画（全国計画）と、地方の自立的な発展を目指すために策定された広域地方計画によって、様々な取組が進められている。このような状況において、四方を海で囲われた我が国には、砂浜や海食崖などの自然海岸や、海運の効率化のために整備された人工海岸のように、多様な様相を呈している海辺がある。このような海辺を、印象深い景観資源として保全し、活用することは、地方の魅力形成につながり、ひいては広域地方計画における地方の自立的な発展に寄与する可能性があると考えられる。また、モータリゼーションの進展に伴い、移動範囲が広域化した現在において、地方ブロック単位の広域スケールとなる広域地方計画は、行動実態に即した有用な計画と考えられる。

一方、広域地方計画では、独自の事業が設定されておらず、海辺景観の創出や活用を検討する場合、港湾法や自然公園法など、個別の制度における事業を活用する必要がある。このことは、地方ブロック単位となる広域スケールで、関連する個別の制度を横断的・包括的に捉えながら、印象深い海辺景観を構成する要素の潜在量を把握すると共に、その魅力を創出し、活用する（顕在化する）ための合理的な計画条件を設定する必要があることを示している。そこで本研究では、広域スケールとなる地方ブロックと、特に海辺空間を特徴づける自然公園区域及び港湾に着目し、それぞれの計画範囲における海辺への接近性と、海辺景観を構成する資源の潜在量を把握すると共に、海辺景観の効率的・効果的な活用保全に資する計画条件の明瞭化と目的とした。

第1章では、海辺に関わる国土施策や、海辺の開発、松の植林に関する歴史的変遷を概観することで、人工海岸や自然海岸など、現在に至る海辺の空間的特徴を把握した。さらに既往研究などから景観の考え方を把握・整理し、本研究における海辺景観の捉え方を設定した。また、近年の国内交通ネットワークの進展に伴う移動範囲の広域化によって、海辺の活用を検討する際は、俯瞰的な検討が必要であることを示した。これらの諸条件を踏まえ、広域スケールから個別具体の計画範囲まで、段階的に海辺景観を構成する資源の潜在量を把握し、接近性からみた海辺景観の顕在化の計画条件に関する示唆を得ることを目的とした。

第2章では、第1章で示したスケール別の調査対象地と研究方法を設定した。具体的には、広域地方計画区域（広域スケール）、自然公園区域（地域スケール）及び港湾計画範囲（地区スケール）の3つのスケール毎に、流域（集水域）に基づく海辺の調査単位の設定や、道路長、滞留用地面積から海辺への接近性を設定する方法、詩歌作品に基づく海辺の景観要素の抽出方法を設定した。また広域スケールに基づく中心市から海辺までの時間距離の分析方法や、自然公園、港の存在率の分析によって、接近性からみた海辺景観を構成する資源の潜在量の設定方法と顕在化のための計画条件を示した。

第3章では、広域地方計画区域の「九州圏」を対象に、現状の海辺の接近性や、海辺景観に資す

る基礎的な空間構成の特徴を把握・整理した。具体的には、海辺における道路長率から、海辺への接近性を捉えると共に、海辺の地理的特徴についてクラスター分析を行い、「浜辺型」や「人工型」などに類型化することで、広域スケールにおいて、接近性からみた海辺景観に資する基礎的な空間構成要素を潜在量の把握と顕在化に関する計画条件を明らかにした。

第4章では、国内の詩歌作品から、自然の海辺と港の印象深い海辺景観要素を抽出すると共に、我が国の海辺の歴史的出来事に沿って、継時的に検討した。

第5章では、自然公園区域となる「玄海国定公園」を対象に、海辺の道路長率を分析し、海辺への接近性から自然公園の保全・活用の可能性を示した。また、第4章で示した詩歌から得られた自然地の海辺景観要素に対応する資源を、国土院地形図を用いて抽出・整理することで、自然公園（地域スケール）において、接近性からみた海辺景観資源の潜在量把握と顕在化の計画条件を明らかにした。

第6章では、都市計画区域における「博多港」を対象に、不特定多数の人が滞留可能な用地の面積率から、港の活用の可能性を示した。また、第4章の詩歌から得られた港の海辺景観要素に対応する資源を、港湾計画図を基に抽出・整理することで、港（地区スケール）において、接近性からみた海辺景観資源の潜在量把握と顕在化の計画条件を明らかにした。

第7章では、広域スケールの視点で、来訪者が多く見込める中心市から海辺までの時間距離を把握し、時間的接近性から海辺景観の活用可能性を定量的に示すと共に、これまでの検討によって把握した、特徴的な景観資源が潜在する自然公園の海辺及び港の存在率（潜在量）と比較することで、接近性からみた海辺景観を構成する資源の潜在量把握と顕在化の計画条件を示し、計画論的意義を探究した。

**Name: Ryota Nakae**

**Thesis Title: The Theory for Planning Coastal Landscape Elements from the view of People's Accessibility.**

### Thesis Summary

Japan is surrounded by the sea which helps to develop a variety of coastlines such as artificial and natural coastline. Because of these unique environment, developing those coastline leads to make areas more appealing for the users and that contribute to the independent development of a region. Therefore, this research estimates the potential of resources that constitute the coastal landscape. Also it is realized by the accessibility of the coastlines.

This is the study of situation of coastal line in regional blocks (which is large area of the regional plans), relations of Japanese poetries and landscape elements, the possibility of utilizing and conserving the natural park landscape, the harbor, and the regional blocks.

The first chapter is about the situation of coastal line in Kyushu area. The accessibility of the coastline is established based on the road length ratio, and the geographical characteristics of the coastline is classified into patterns such as "natural type" and "artificial type" to determine the amount of potential resources which constitute the coastal landscape.

The second chapter is about landscape elements which contribute to the impressive coastal scenery extracted from Japanese poetries. These poetic scenery were organized chronologically according to the depiction of historic events on coastal Japan.

The third chapter is about the coastal line in Genkai Quasi National park. The possibility of utilizing a natural park is established based on the accessibility of the coastline which estimated from the ratio of road length. Moreover, the possibility of regenerating and conserving the natural park landscape extracted from poems are sorted based on Geographical Survey Institute topographical maps.

The fourth chapter is about Hakata harbor. The possibility of utilizing a harbor was established based on the accessibility which estimated from the ratio of areas where there are available large group of people. Moreover, the possibility of regenerating the harbor landscape extracted from poems are sorted based on harbor-planning charts.

The last chapter is about regional blocks of Kyushu area. The temporal distance from the

central city to the coastline is recognized, the possibility of utilizing the coastal landscape is discerned based on temporal accessibility. Moreover, through comparing the amount of potential resources which constitute the coastal landscape in natural park and harbors with the possibility of utilizing the coastal landscape, the theory for planning coastal landscape elements from the view of people's accessibility.